

令和4年度 日田もりビジョン推進検討委員会 議事録

日 時 令和4年10月31日(月)10時～11時40分

場 所 日田市役所 7階 中会議室

次 第

1、開会

2、林業振興課長あいさつ

3、委員の委嘱

4、委員紹介

5、委員長選任

6、委員長あいさつ

7、議題

(1) 日田もりビジョンの取組状況について

8、その他

R5 ビジョン改訂に伴うアンケート調査について

9、閉会

1～6 [省略]

7、議題

(1) 日田もりビジョンの取組状況について

[質疑応答等]

(委員)

「(1)森林を守り・育てる」の分野の中で、P2 流木被害緊急対策事業で谷に木が流れていかなような事業をしており、令和4年度も計画しているようである。この取組をすることで、二次災害が起きないようにすることが重要であると捉えている。

(委員)

当社は、流木被害緊急対策事業で1件の実績があり、川沿いや急峻な地形、流れが激しい所もあるので、継続してこの事業を行っていただきたいと思う。

(委員長)

ウッドショックで材木の高騰もあり、伐出の際に作業道を入れて山を荒らしている。山に行く際にすぐ行けるはずであった場所が、2時間を要した。これは、マナーの悪い事業者が伐った材を里道等に倒し込んでおり、山を歩くことができなかった。山を大事にすることを念頭に置いて伐出をしていただきたい。市にはそういう問題があることを認識していただきたい。

(委員)

原木市場では、伐ったら植えることを前提に取り組んでいるが、悩みの一つとして、伐った後の造林関係で人材が不足している。ここに力を入れて人の育成を検討している。造林班が高齢化、減少している現状があり、人材育成で人を育てることに取り組みたい。作業道が荒れていることは、次回の会議で共有したいと思う。

(委員)

「(2) 森林を活かす」の分野の中で、P9 日田市の素材生産量について、大分県では 158 万³であり、急激に上昇したものには歪みが生まれると思うが、前兆や予測等ができていないのかお聞きしたい。

(事務局)

大分県の素材生産量は 160 万³を目指している。ウッドショックで主伐面積が増えていると聞いており、令和 3 年度の実績は、県全体の素材生産量の中から日田市の伐採届の率より算出し、約 32 万 6 千³である。原木価格も安定してきており、日田市では 30 万³以上を保つように取り組みたいと思っている。主伐が増えすぎると再生林に影響が出てくるので、その辺は伐採届等をチェックしながら進めていきたい。

(委員)

木づかい促進事業はとても活用されている。地域の工務店等から話を聞くと新築の場合にはハウスメーカーが主力だが、数年前よりリフォームが多くなり、この事業を活用する方が多い。耐震診断と一緒に使えるので、リフォームにも使わせていただいている。

(委員長)

リフォームは地元の工務店等が多く、新築はハウスメーカーであるとのことだが、ハウスメーカーでも日田材を使っているのか。日田材が使いにくいとかは聞かないか。

(委員)

施主が日田で建てるのであれば対象となるので、日田材は使われていると思う。日田材が使いにくいということは聞かない。

(事務局)

木づかい促進事業は、ハウスメーカーや工務店等が日田材を使うことが一つの要件である。ハウスメーカーでも、基本的には日田材を使っている。この申請関係は、日田木材協同組合が窓口となり、チェックをして事業を進めている。地域材の需要拡大に繋がっていると思う。

(委員)

日田家具工業会の最近の取組では、全国育樹祭の際に、日田家具工業会と日田林工の生徒で大会のメインモニュメントを製作している。6 ヶ月かけて製作しており、林業の盛んな大分県

をPRしたいと思う。小中学校の学校机、椅子の製作は、来年度から本格的に導入する計画である。小中学校あわせて約4,600セットで、杉の天板が簡単に取り外しでき、1年生でもらった天板を6年生まで使い、卒業時には記念で持ち帰り、小さい頃より木に触れ合うことを目的としている。地域材利活用商品のデザイン力向上ということで若いデザイナーの育成をしている。具体的には、大分県立芸術文化短期大学とタイアップして、今年2年目になるが、日田家具衆のメンバーが講師で授業を行い、日田杉の特性を活かしたデザイン開発に取り組んでいる。森林資源を活かした地域活性化では、物づくり探検隊を行い、日田市工業展とタイアップして、木工関係を中心とした市内企業の工場見学やワークショップを行っている。また、継続的な取組として、産業観光等のプログラムを通じて日田は木工の町であることをPRしていきたいと思う。また、地域材利活用商品の販促活動では、展示会をここ2、3年はコロナの影響でできていなかったが、来年度から本格的に再開し、東京ビックサイトの展示会、商談会に出店予定である。

(事務局)

小中学校の学校机、椅子は、既存の机椅子が傷んできており、令和4年度末までに小野小学校と戸山中学校に先行導入し、令和5年度からは順次導入していく予定である。12月4日に木と暮らしのフェアがあり、学校机、椅子を展示する予定である。育樹祭のモニュメントも、調整しながら、木と暮らしのフェア等で市民の皆さんに見ていただける場を設けたいと思う。

(委員長)

先程の話は、学校の教室における机椅子の話であるが、家庭用の学習用机椅子は、数年で使えなくなり、粗大ごみになり、捨てきれない状況である。家庭用の学習用机椅子には取り組めないか。塗料やボンド等があり、リユースができない状況である。木工、家具の町であるので、ビス止め等でリユースができないか可能性について今度教えてほしい。

(委員)

「(3)森林でつながる」の分野の中で、P10 木と暮らしのフェアがあるが、大分県林業研究部より話があり、九州大学の清水先生を講師に講演会を開くので参加してほしいと話があった。清水先生は大学構内に研究棟を建てて取り組んでいる研究であり、自然乾燥と機械乾燥の違いについて、色々な視点から研究して、木が人に良いということを数値化した。工務店をはじめ、色々な方に講演を聞いてほしい。

(事務局)

12月4日開催の木と暮らしのフェアと同時開催で大分県林業研究部が講演会を開催するのでぜひ参加してほしい。

(委員)

日田林工の定員は少なくなっており、林業科では1年生から3年生まで合わせて90名程である。今年の3年生の進路について林業科を中心に紹介すると、3年生32名の進路は、専門

の関係で進むのが 21 名で、その内就職が 16 名、進学が 5 名である。専門の関係の中で、就職で地元に残る方は 4 名で、家具製造業や機械を作る会社、製材業や市場である。進学で専門の 4 年生大学に進むのは、2 名を予定している。林業大学校は 3 名、林業アカデミーに 1 名いる。生徒は育樹祭の関係や小中学校への出前授業等の活動を行っており、今後の地元林業で就職する生徒を増やす取組になればと思う。今後は益々、生徒数が減ることが分かっているので、何とか頑張っている状況である。

(委員)

昔も今後も日田は、林業の町として進んでいくと思う。川上から川下へ日田のように林業体系がきちんと出来あがっている林業地はあまりないと思う。日田の林業は、各業界の努力によりこれからも発展していくと思う。森林組合や企業等が色々な所で森林整備をしているが、日田の森林所有形態から言えば、1ha 未満の森林所有者が非常に多く、未整備森林は課題であるが、整備されている所は整備されており、上手くいっているところは上手くいっている。日田の森林の 7 割、8 割は、戦後の拡大造林で山の上まで杉を植えており、そのような状況が実際にある。そのことをこれからどうしていくかは、森林環境譲与税が導入されて、改善されていくと思う。日田は、林相美がきれいであると言われるが、実際に山に行くと荒れている状態があり、これから日田の林業を進めていくうえで何とかしていかないと産業全体がダメになる。そういうことを森林環境譲与税が導入された時に考えていかななくてはならない。どこかで自然に問題が起きてくると、どこかで産業にも問題が起きてくる。いつかどこかで改善していかないといけないと思う。補助金もよいが、どこかでそういう研究も進めていけたらよいと思う。

(事務局)

大分県のビジョン改訂の中で生産林、環境林の割合を考えながら、森林整備で 50 年後を見据えた森林づくりが議論されている。市では森林資源解析を行い、市内の約 5 割が杉で、約 1 割 5 分は桧であり、人工林の割合が多い。尾根、急傾斜地は、広葉樹化を県と一緒に進めていきたいと思う。

(委員長)

先日、大分県の会議に参加した。湯布院の林業研修所の存廃が議題にあがり、私自身は 40 年前に研修を受けて、非常に効果的であったので存続について強く訴えた。夜を徹して林業仲間でも話し合うことが勉強になると言った。林業研修所を担い手づくりに利用するとレベルが高く、非常に良いので、林業研修所を利用するとよいと思う。

(委員)

日田市の取組は施策体系を 3 つに分けて進めている。大分県では森林環境税でこのような施策体系で取り組んでいるが、これとは別に次世代の森林づくりビジョンを作成し、将来どのような森にしていくのかという計画があるが、日田市のビジョンは一緒になって整理されていると思う。素材生産量は拡大しており、県では 160 万 m³を令和 6 年度の目標としており、令和

3年度ではほぼ目標達成に近い数字である。今大事なのは伐った植えること、再造林をしっかりとやっていく必要がある。県では、早生樹や資源循環型利用や資源循環型林業を構築するために、大径材をいかに活用するのか、また、早生樹で30年後に50年生の森林資源が大きく落ち込む時にカバーできる資源を構築していくことに取り組んでいる。日田市の早生樹の取組が改訂版に書いており、その辺も深く入り込んで体系を構築していく必要がある。担い手は増やすことも必要であるが、人口減少もあり、急激に林業関係に担い手が来ることも考えられないので、今の仕事をいかに機械化、省力化するかしかない。林業関係では、下刈りの機械化や一貫作業の取組もビジョンの中に入っているのも、そこも深く入った取組をしていただければと思う。日田市は、令和3年度に森林資源解析を行い、県下でも進んでいる状況で、日田市の取組を他の市町村が真似していくことになる。資源解析を最終的にどういった形にしていくか、ビジョンの中でももう少し深く出していただくことが必要になってくると感じた。災害に強い森林づくりに日田市が取り組んでおり、県の事業に協力していただき、県では手が出せない災害に強い森林づくりを日田市独自に取り組んでいるので、ぜひ今後も続けていただきたい。急傾斜地の広葉樹化は、100%の補助事業があるので、市民にお知らせしながら今後は効率の良い林業体系を作っていく必要がある。山の急傾斜地は、広葉樹化を進めていってほしい。素材生産は機械化が進んでいるが、造林分野は手作業が多いので担い手が不足していることは指摘されている通りである。これも喫緊の課題で西部地域活性化協議会の中で担い手対策を検討すべきであるという指導をいただいている。造林関係の担い手をどう確保するかを日田市のビジョンにも盛り込むとよい。

(委員)

持続的な林業振興に向けて、多様で健全な森林づくり、木を活かした多様な木材産業、森林サービス産業が日田市の森林ビジョンの森を守り・育てる、森を活かす、森でつながるという3つの柱になっていると考えている。総合的な取組が必要であり、その恵みを市民の方等にどう活かしてもらうかが私達の課題であると感じた。今後は、森林が持っている温室効果ガスの削減も、皆さんの注目度が上がってくると考えている。来年度、日田市の森林ビジョンの改訂を行うが、皆さん方のご意見を十分に伺いながら進めていきたいと考えているので、引き続きよろしくお願いします。

8、その他

(事務局) R5 ビジョン改訂に伴うアンケート調査について [説明省略]

9、閉会

令和4年度日田もりビジョン推進検討委員会 委員名簿

任期:R4.10.31～R6.3.31

No	所 属	役 職	氏 名	備 考
1	大分県林業経営者協会	顧問	長 哲也	
2	日田郡森林組合	参事	井上 健剛	
3	日田木材協同組合	総務課長	井上 勝喜	(代理) 高瀬 修哉
4	日田地区原木市場協同組合	業務委員長	黒木 利典	
5	大分森林インストラクター会	会員	河津 文昭	
6	大分県建築士会日田支部	常議員	澤熊 祐子	
7	株式会社トライ・ウッド	常務	古川 和博	
8	協同組合日田家具工業会	事務局長	上部 和彦	
9	日田林工高等学校	林業科主任	野上 和仁	
10	大分県西部振興局農山村振興部	部長	田口 孝男	
11	日田市農林振興部	部長	鈴木 浩美	

事務局: 林業振興課